

単元名

大きく そだて わたしの 野さい

教科書 下巻 p.12～27 単元の配当時間 13 時間／活動時期 4 ～10 月

単元の目標

野菜を継続的に育てる活動を通して、野菜の育つ場所、変化や成長のようすに関心をもって働きかけ、それぞれの野菜に合った世話のしかたがあることや野菜が生命をもっていること、成長していることに気付くとともに、野菜に親しみをもって大切にすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

※ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
そだてる 野さいを きめよう（1時間） これまでの栽培経験や昨年度の2年生の活動のようすから、野菜を育ててみたいという思いをもち、栽培する時期や場所を考えながら、自分で育てたい野菜を決めることができるようにする。	思	野菜を栽培する時期や場所などを考えながら、育ててみたい野菜を選んだり決めたりしている。	「ピーマンはあまり好きじゃないけれど、自分で育てたら好きになれるかもしれないから、ピーマンを育てることにしたよ」など、栽培しようとする理由を表現している。	●友達と育てたい野菜について話をしてみるように声をかける。 ●教科書下巻p.14 ～ 15 の写真を参考に、育てる野菜を決めるように助言する。
たねや なえを うえよう（2時間） これまでの栽培活動を振り返ったり、人に聞いたり、本やインターネットで調べたりするなど、栽培活動の準備を行う中で、野菜によって種のまき方や苗の植え方に違いがあることに気付くとともに、野菜の成長を願いながら、種をまいたり苗を植えたりすることができるようにする。	知	野菜によって、種のまき方や苗の植え方に違いがあることに気付いている。	「ふかふかのベッドのような土がいるよ」「サイズは種から育てた方がいいって名人が言っていたよ」など、野菜によって栽培方法が異なることに気付いている。	●アサガオの栽培経験を思い出させる。 ●野菜についての図鑑や本をもとに、世話のしかたについて考えるように促す。
	態	自分の野菜のよりよい成長を願って、種をまいたり苗を植えたりしようとしている。	「これから毎日忘れずに水をあげるからね。おいしい野菜になってね」など、野菜を育てることに関心をもち、収穫への期待や夢をもちながら、種をまいたり、苗を植えたりしようとしている。	●これまでの栽培経験や野菜を育ててどうしたいかなどを聞き、思いをふくらませる。 ●教師がいっしょに野菜の種をまいたり、苗を植えたりするようにする。 ●自分で育てた野菜をどうやって食べたいか考えさせる。
せわを しょう（2時間） 野菜の観察や世話を通して、野菜の特徴、変化や成長のようすに気付き、野菜のようすに合った世話をするようにする。	知	育てている野菜の変化や成長に気付いている。	「ミニトマトの茎には、小さくてざらざらした毛が生えていたよ」「日がよくあたる場所に置いて、水も毎日忘れずにあげるとよく育つんだよ」など、諸感覚を使いながら観察し、野菜の特徴、育つ場所、変化や成長のようすに気付いている。	●前に撮影した野菜の写真と比べたり、葉の大きさや高さを測ったりして観察するように声をかける。
	思	諸感覚を使って見付けたり、比べたり、たとえたりしながら観察や世話をしている。	「キュウリもアサガオと同じようにつるが伸びるけれど、よく見たらアサガオと違って、つるからヒゲみたいなものが出ていたよ」「苗を植えたときと比べて、葉が3センチも大きくなっているよ」など、前のようすと比べたり、友達の野菜と比べたりしながら観察や世話をしている。	●教科書下巻p.19 の「かんさつ名人」を参考にして観察するように声をかける。 ●友達の野菜と比べたり、情報交換をしたりして、わかったことや気付いたことをもとに世話をするように促す。

小単元名と小単元の目標	評価規準（おおむね満足できる）		十分満足できると見取る児童の具体例	努力を要する児童への支援
せわを つづけよう （2時間） 観察や世話を通して気付いたこと、人に聞いたこと、調べたことなどから、それぞれの野菜に合った世話のしかたがあることに気付き、野菜の成長に合わせて世話のしかたを工夫しながら世話を続けることができるようにする。	知	それぞれの野菜に合った世話のしかたがあることに気付いている。	「大きくなってきたら、アサガオのときと同じように支柱を立てないといけないね」「トマトもナスも、わき芽を摘むとよく育つんだね」など、それぞれの野菜の世話のしかたについて、違いや共通点に気付いている。	●友達の野菜と比べてどこが違うのか、世話で工夫しているところはどこかを見付けるように声をかける。
	思	友達と自分の世話のしかたを比べたり、調べたことを試したりしながら、工夫して世話をしている。	「〇〇さんのナスは支柱を3本使っているからしっかりしているな。私のピーマンも、同じようにしたら倒れないかもしれないからやってみよう」など、友達の世話のしかたを見たり、自分とは異なる野菜の世話のしかたを参考にしたりして、自分の世話に生かしている。	●工夫して世話をしている友達のようなすを取り上げてクラス全体に広げたり、友達の工夫を参考にするように声をかけたりする。
	態	野菜のようすに合わせて世話をするなど、繰り返し関わろうとしている。	「最近元気がないな。肥料をあげてみようかな」「今日は暑くなりそうだから、たっぷり水をあげよう」など、野菜のようすや周りの環境に合わせて世話を続けている。	●教師や友達といっしょに世話をする場を設定する。 ●これまでの栽培経験を思い出し、何ができるか考えてみるように声をかける。
みのった 野さいを しゅうかくしよう（2時間） 収穫の喜びを感じるとともに、植物も生命をもって成長していることに気付き、これからも大切にすることができるようにする。	知	自分が世話を工夫したことで野菜が大きく成長したことや、植物が生命をもっていることに気付いている。	「1年生のときよりも、水や肥料をやることがうまくできるようになったよ。毎日少しずつ大きくなってきたよ。トマトも生きているんだね」など、自分の世話と植物の成長の関係に気付いている。	●1年生のときや2年生で栽培を始めたばかりのときと比べて、世話が上手になったことを褒める。
	態	野菜に親しみや愛着をもち、生命あるものとして関わろうとしている。	「一生懸命世話をしたから、実がたくさんとれたよ。家の人といっしょに食べたいな」など、これまでの活動を振り返り、収穫の喜びを友達や家の人と共有しようとしている。	●初めてできた花や実について、実物やこれまでに撮りためた写真や動画をいっしょに見ながら、そのときの気持ちを聞くようにする。
わたしの 野さいを しょうかいしよう（4時間） 自分が育てた野菜の成長のようすやこれまでの世話を振り返る活動を通して、植物が生命をもって成長していることや適切に世話ができるようになった自分の成長に気付くことができるようにする。	知	野菜への親しみが増し、上手に世話ができるようになった自分の成長に気付いている。	「ミニトマトの実は、赤くてつやつやしていて、とてもかわいいよ」「毎日世話を頑張ったから大きく育ったよ」など、育てた野菜の成長のようすや頑張った自分の姿に気付いている。	●かきためた記録カードを時系列順に並べたり、継続的に撮りためた写真を見せたりして、野菜の変化のようすや自分の成長を実感できるようにする。
	思	育ててきた野菜のことや心を寄せて世話をしてきたことなどを振り返り、表現している。	「こんなふうにカードをつなげてみると、大きくなっていくようすがよくわかるよ」など、記録カードのまとめ方や表現のしかたを自分なりに工夫し、表現している。	●絵や文章など、得意な表現方法で活動を振り返るように声をかける。 ●まとめ方の例として、工夫したものを実際に例示し、参考にさせる。
	態	植物を育てることのよさを実感し、これからも植物を生命あるものとして大切に関わろうとしている。	「最初はこんなに小さかったのに、どんどん大きくなっておいしい野菜ができました。みんなで食べたら、もっとおいしかったよ。次は違う野菜も育ててみたいな」など、活動を振り返り、次への展望をもっている。	●記録カードやこれまで撮りためた写真、動画などをもとに、種をまいたり、苗を植えたり、収穫したりしたときの気持ちを思い出させる。